

近畿地方のごみ焼却施設における温室効果ガス46%削減に関するシナリオ分析
－焼却量、プラスチック比率、発電能力の影響－
要旨

岩口智洋*

*追手門学院大学 経済学部経済学科

本研究では、近畿2府4県のごみ焼却施設を対象に、2030年度温室効果ガス（GHG）46%削減（削減目標）を達成する最適なごみ焼却量、プラスチック類割合、ごみ1tあたり発電量を3つのシナリオを基に推定し、各シナリオのGHG排出量と削減量の内訳を示した。その結果、削減目標達成には、ごみ焼却量の変化を考慮したシナリオ1では焼却量を平均24.6～59.3%削減させることが、プラスチック類割合の変化を考慮したシナリオ2ではプラスチック類割合を平均25.4%～60%低下させることが、ごみ1tあたり発電量の変化を考慮したシナリオ3では発電量をほとんどの施設で600kWh/t以上に増加させることが必要であると明らかになった。また、GHG排出量と削減量の内訳では、ごみ焼却量の減少によるプラスチック類からの排出量削減での削減目標達成（シナリオ1）、プラスチック類割合の低下とごみ発電による削減による削減目標達成（シナリオ2）、ごみ1tあたり発電量、総発電量の増加による削減量の増加での削減目標達成（シナリオ3）という結果が示された。